

令和5年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【STEAM教育推進校用】

学校番号	33
学校名	富山県立砺波高等学校

重点課題	実社会において、課題を自ら見出し、解決に向けて創造的に考え、発信できるような探究的・科学的な思考力を育成する。	
課題設定の趣旨	本校では中長期ビジョンの一つに「経験したことのない速さと規模で変化する社会の中でも、冷静な判断力をもち、未来を担うリーダーシップが発揮できる生徒の育成」を掲げている。そのために、生徒が主体的に課題を見出し、情報を集め、論理的な解決策を導くための思考力や判断力、文理の枠を超えた新しい価値を見出すための創造力を養う教育を推進する。さらに外部への発表と意見交換の機会を持つことで、自己の学びを深化する契機とさせ、探究教育について砺波地区全体の核となるような先進的な取り組みを進めていきたい。(とやまSTEAMの確立)	
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項	1. 地域社会や産業界および大学と連携して実社会を見据えた課題を設定し、客観的なデータを用いた分析の手法を学び、それを活かした探究活動を行うこと。 2. クラウドサービスなどICTを活用して、研究およびプレゼンテーションの質を高めるとともに、その評価を工夫して実施し、フィードバックを行うこと。 3. 教師が教科横断的に協力しながら、適切な支援を行う指導力を向上すること。 4. 探究的な学びについて、課題研究の目的や手法を中心に、地域の中学校と連携しながら研究を深めること。	
実施内容 (具体的に記入する)	<p><1学年> 探究力育成の入門編として、1学年では理数的な見方・考え方を働かせて課題を解決するための、基本的な研究方法の習得を目標に、「総合的な探究の時間」を中心に学習を進めた。 ①「理数探究基礎」の教科書を副教材に用いて探究の意義、探究の過程、研究倫理について学び、データの分析や結果の考察、アンケート実施などの手法について、富山大学から2名の先生を招聘して講義を受講した。講義を踏まえて実際にアンケート調査を実施し、クラウドサービスの表計算シートを用いて具体的なデータ分析の実践練習に取り組んだ。 ②テーマ設定の仕方をマインドマップ等を用いて具体化していく過程について学習した。 ③課題研究の具体的なテーマ設定に向けて、企業や市民団体から講師を招いて様々な課題解決の取り組みについて学習した。</p> <p><2学年> 「総合的な探究の時間」を中心にして課題研究を行った。研究班によっては市役所や地域の企業や団体と連携し、地域が抱える問題に取り組み、発表を行った。 ①グループを編成し、研究テーマについて協議し、練り直した。その後、情報収集して分析を行い、10月2日に中間発表会を実施。富山大学、金沢大学から講師を招き、研究内容や発表の仕方についてアドバイスを受けた。 ②12月9日に課題研究発表会を実施。文理共に1、2型選択者はポスターセッション、3型選択者はスライドによる発表を行った。富山大学、金沢大学から再び講師を招き、講評をいただいた。また、市役所や地域の方々、各校の教員や中学生にも発表を公開した。 ③12月15日に砺波市役所において開催された「砺波市の課題研究提案発表会」に参加。4つの班が住みよいまちづくりに関して提案をした。砺波市長、副市長、砺波市教育長、その他多数の市役所職員による質疑および講評をいただいた。 ④2月3日に「とやま探究フォーラム」に参加し、4つの班が発表した。 <教員研修:「探究的な学び研修会」の実施> 砺波地区の中学校、高等学校の教員に参加を募り、中高合同の研修会を10月16日に実施した。茨城県立並木中等教育学校の吉村大介先生の講話を聞き、その後5グループに分かれて班別協議を行った。</p>	
取組の成果 (STEAM教育推進の観点から)	<p>○教科横断型の学習活動を通して、学問等に対する興味関心を深め、自ら取り組む課題に対して問いを立て、課題を解決するために主体的に取り組む態度が身についた。 ○課題を多面的・多角的に検討することを通して、思考力、判断力、表現力等が鍛えられ、課題解決能力を伸長することができた。 ○協働的な学習を通して、コミュニケーション能力や言語活動能力が向上した。 ○調査探究活動を通じて、学ぶことの意味や意義を考え、学ぶことを通じて達成感や自信を持つとともに、自分の人生や将来について考え、自己のキャリア形成に活かすことができた。 ○ルーブリック評価によって、TGP(Tonami Graduation Policy)評価を行い、特に1学年では自己力(自己肯定感、メタ認知)と発信力(表現力)が、2学年では協働力(協調性)、思考力(課題発見力・論理的思考力)、自己力、発信力が伸長したと自己評価した。</p>	
対象者(学年・人数など)	1学年(159名) 2学年(158名)	
実施実績	4月	1年: 探究の意義とオリエンテーション、砺波図書館研修 2年: 課題研究テーマ設定、研究グループ形成
	5月	1年: 探究学習の流れ 2年: 課題研究テーマの設定、課題研究計画作成と発表
	6月	1年: 進路探究(企業訪問に向けて) 2年: 進路探究
	7月	1年: 進路探究(企業訪問) 2年: 事前レポート作成
	8月	2年: 臨海実習(理系3型選択)、地域調査(文系3型選択)
	9月	1年: 理数探究基礎 2年: 課題研究
	10月	1年: 理数探究基礎 2年: 課題研究中間発表(富大・金大の講師による指導) 砺波地区教員:「探究的な学び研修会」
	11月	1年: 理数探究基礎(富大の講師によるデータ分析手法の指導) 2年: 課題研究(発表準備)
	12月	2年: 課題研究発表会(富大・金大の講師による指導)
	1月	1年: テーマ設定の手法(富大の講師を招聘) 2年: 課題研究のまとめ(レポート作成)
	2月	1年: テーマ設定、アンケート調査の手法 2年: 課題研究のまとめ(レポート作成)、ルーブリック自己評価
	3月	1年: 「課題解決のための取り組みに学ぶ」(企業、市民団体から4名の講師招聘)